

原子力災害に関する水稲・野菜・果樹の栽培管理

福島県農林水産部

水稲や野菜では、施肥や植え付けなど本格的な農作業の時期を迎えました。また、モモ、ナシ等の果樹では開花期を迎えております。

つきましては、今後の栽培管理のポイントを以下のように取りまとめましたので、参考に願います。

1 水 稲

(1) 代かき作業上の留意点

周辺環境への影響を考慮し、代かきを行う際は以下のような点に注意することが必要です。

- ア 代かきは浅水で行い、極力、強制落水は行わないようにします（できるだけ地下浸透で水を落とすこと）。
- イ やむを得ず強制落水する場合でも、少なくとも数日間放置し、濁りが十分なくなっ
てから行います。
- ウ 田植え後も、用水の掛け流しは極力行わないようにします。

(2) 育苗ハウスの換気

育苗期間中は、28℃以上の高温にならないよう日中の換気に注意してください。

2 野 菜

(1) 施肥について

放射性セシウムの吸収を抑制するために、現時点で取組が可能な技術としては、次のものがあります。いずれも施用量は、これまでの土壌分析結果などにより判断し過剰等が出ないように実施します。

ア カリ肥料の施用によるセシウムの吸収抑制

基肥と追肥でのカリ施肥は、セシウム吸収抑制に効果的と考えられます。このため各野菜の標準施肥量の施用を行うようにします。ただし野菜畑のカリウムは過剰傾向にあるので、施用量はこれまでの土壌分析結果などにより判断し、普通畑地土壌の基準値を参考とします。カリ肥料（単肥）の種類としては塩化カリ、硫酸カリ、珪酸カリがありますが、それぞれの特性に留意して使用します。

なお、カリ過剰になるとカルシウム、マグネシウム欠乏を引き起こすおそれがありますので注意が必要です。

イ pH調整によるセシウムの吸収抑制

石灰質肥料などを施用し、土壌のpHを上げることは、放射性セシウムの吸収抑制が期待できます。

ただし、目標pH値は各野菜の基準値とし、この基準値よりも低いpHのほ場に石灰質肥料等の土壌改良資材を投入するようにします。

土壌改良資材としては、pH調整効果が持続する炭酸石灰（炭カル）があります。施用量は野菜の種類や土質、土壌pHによって異なりますが一回の投入量の上限は200kg/10aとします。

なお、各野菜の適正pH以上の土壌改良資材の施用は、微量元素の欠乏症が発生する可能性がありますので、施用量には注意してください。

(2) マルチ・敷わらの利用

植え付け時にはできるだけマルチを利用し、その後は通路へ敷わらを行うなどして、野菜への土の付着を少なくします。

(3) 施設栽培

換気によって大気中の放射性物質が施設内に取り込まれる可能性がありますので、換気する際は風向きなどに注意するとともに、降雨についてもハウス内に侵入しないように注意します。

(4) 露地栽培

放射性物質の作物への降下や付着等を少なくするため、育苗はなるべくハウス内で行うようにします。また、栽培方法もできるだけべたがけ栽培やトンネル栽培に切り替えます。

(5) 収穫時の留意点

ア 収穫した野菜については、長時間屋外に放置せず、速やかに屋内の施設に移動させて、貯蔵・保管するようにします。

イ 品質に影響を与えない範囲で野菜についた土やほこりを除いたり、洗ったりします。特に葉菜類については、できるだけ外葉を取り除くようにします。

3 果 樹

(1) 開花状況と開花予測

農業総合センター果樹研究所における開花始めは、モモ「あかつき」が4月18日で平年より3日遅く、ナシ「幸水」が4月25日で平年より2日遅れました。

また、今後の気温が平年並みに経過した場合、リンゴ「ふじ」の開花始めは4月29日頃で平年より2日遅いと予測されます。なお、開花の予測は、今後の気温により大きく変動するので、注意してください。

(2) 栽培上の留意点

ア 人工受粉

モモ、ナシおよびオウトウ等では、現在開花期を迎えており、リンゴも間もなく開花期を迎えようとしています。

開花期が低温や強風、乾燥条件で経過すると結実が劣る傾向があります。特に、低温条件では訪花昆虫の活動が停滞しやすいので、人工受粉を丁寧に行い、結実の確保を図りましょう。

イ 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性の低下が著しく、凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底してください。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉の徹底により結実確保を図りましょう。

また、以下のホームページに「凍霜害等気象災害防止対策について」、「果樹の生育ステージと防霜対策のための温度指標」を掲載しておりますので、参照してください。

URL <http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyuukaihatu/gijyutsufukyu/seiikugijyutsujyohou.html#tokubetsujyohou>

4 共通事項

(1) 作業上の留意点

耕うん等の農作業を行う際に、放射性物質が含まれる可能性のある粉じんの吸入や土壌・水との接触をできるだけ避けるようにするため、以下の点に注意することが望ましいと考えられます。

ア マスク、ゴム手袋、ゴム長靴等を着用します。

イ 農作業後に手足・顔等の露出部分の洗浄を励行します。

ウ 屋外作業の後、屋内作業を行う場合には、服を着替えるなど、ちり、ほこり等を持ち込まないようにします。

5 関連情報

(1) 原子力発電所の事故に伴う出荷制限等への対応に関するQ & A（平成23年4月13日現在）が掲載されております。

URL http://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/syukka_kisei.html

- (2) 放射性物質が検出された野菜等の廃棄方法について Q & A (平成23年4月12日現在) が掲載されています。
URL http://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/seisan_haiki.html
- (3) 福島県のホームページに「原子力発電所事故による農産物被害等関連情報」を掲載しております。
URL http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=23692
- (4) 4月22日に農林水産省より「原発事故の影響下での農作物の作付に関する Q & A」(稲の作付制限等、平成23年4月) が掲載されております。
URL http://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/sakutuke_qa.html

問い合わせ先

農林水産業に関する相談窓口 (電話 : 024 - 521 - 7319)

ホームページ

農林水産部研究技術室ホームページ (PDF形式ファイル)

URL <http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyukaihatu/gijyutsufukyu/seiikugijyutsujyohou.html>

モバイル県庁

福島モバイル県庁 お知らせ・各種情報 農業技術情報

URL http://mobile.pref.fukushima.jp/mobile2/kenkyuugijyutu/mobile-naogyou/15_naogyuugijyutujohou.html?_pxi=-YuzhNc3LHREF&xjLlCq...



モバイル版は、こちらから、ご覧いただけます。